



秋日和（陣ノ内館跡から）

うたごよみ 神無月

〔短歌〕

渡辺幸士 選

蒸し暑き夜に数多の啼く虫に季の移ろいを枕
辺に聞く 松本ぬい子

合歓の花うす紅色に咲き盛り蝶も舞い来てさ
庭華やぐ 森田 房恵

つつましき独りの夕餉好きなもの作りて食む
は幸せなりし 内田乃武子

青々と庭木の横の茂りいてその輝きに癒され
ており 井上ユリ子

節電の一助にゴーヤ植ゆる家軒並みありて赤
き実笑う 上村 かず

老化にはよく効くと言う宣伝の食品求め農に
励めり 吉永由紀子

吾が庭に無い花見では褒め称え「あげましよ
うか」の言葉待ちいる 上村やす美

転がりて命終えゆく蝉ひとつ寄り行けばなお
逃れんとする 内山タミエ

この夏のゴーヤカーテン涼を呼び味覚と節電
兼ね揃えおり 緒方 明美

孫とする「かごめかごめ」の輪の中に笑顔の
亡母の声聞こえ来る 赤星 延子

炎天の横断歩道の点滅に気は焦れども足は縛
るる 塚原 暁益

石仏を守る仁王の磨崖仏白杵の里に驚きて見
る 本田富美子

わが旅は寝台特急「カシオペア」亡妻の旅路
の「銀河」を仰ぎ 渡辺 幸士

〔川柳〕

渡辺幸士 選

〔台風〕

台風之余波に勝てない病みあがり 丸岡はる子

孫台風我が家の庭も雲が逃げ 緒方 瑞枝

台風で窓のガラスに板を張る 早 彦喜

台風一過屋根屋バイトの数増やす 北 仁子

代表選党内嵐吹き荒れる 古閑チヨミ

幼児にどっちが好きと迫るパパ 布田 愛子

心に貯金優しさ貰う好きな友 伊豆野ヤエ

大輪の赤より白い花が好き 成松 松枝

好きな道今日もいそいそ暮会所へ 林 雅之

マシユマロが好き男で敵が無い 渡辺 幸士

つかまり立ち赤子思いて梨をむく 田端 慶子

手枕に畳の冷えや青葉風 堀田 孝恵

秋立つや阿蘇噴火口と巡り 高田レイ子

拗ねし児と共に仰ぎぬ秋の月 楠本 美鶴

今朝の秋猛暑忘るる散歩道 古田 幸子

法師蟬親しき友よお浄土へ 本田 信子

〔俳句〕

つかまり立ち赤子思いて梨をむく 田端 慶子

手枕に畳の冷えや青葉風 堀田 孝恵

秋立つや阿蘇噴火口と巡り 高田レイ子

拗ねし児と共に仰ぎぬ秋の月 楠本 美鶴

今朝の秋猛暑忘るる散歩道 古田 幸子

法師蟬親しき友よお浄土へ 本田 信子

お問い合わせ先 町教育委員会公民館事務局
☎096・234・1111（内線321）

ひとの動き (敬称略)

8月11日(木)～9月10日(土)

birth お誕生おめでとう

住所	氏名	性別	保護者
糸田	入口 幸士	男	直幸
下横田	松永 翔和	男	朋也
豊内	沢見 愛生	男	孝

marriage ご結婚おめでとう

住所	氏名
山都町	山岡 一斗
岩下	甲斐 由佳
菊陽町	益田 祐輔
田口	前田 志織

condolence お悔やみ申し上げます

住所	氏名	年齢	世帯主
早川	清村 義晴	86	ミチ子
岩下	田中 竹四	86	弘二
白旗	田端 正司	82	正司
白旗	中嶋 幸	103	敬介
田口	大島 親義	88	和弘
上早川	清村 寛	91	幸子
早川	丸山 静子	97	静子
中横田	内藤 義明	85	スエノ
糸田	本田 守	85	邦子
糸田	田添 徳子	70	道治

〔町史編さんだより〕

今年、親鸞（1173～1262）の七百五十年忌にあたり、親鸞ゆかりの展示会が盛大に開催されています。本願寺八世蓮如（1415～1499）は、親鸞の教えを分かりやすい手紙の形式で門徒に与えました。そのうちの80通を5巻にまとめたものを「御文章（ごぶんしょう）」といっています。

浄土真宗のお寺では、布教活動に御文章を法話として門徒に読み聞かせていました。

旧宮内村には、お寺がありません。浄土真宗のお寺の僧侶を招いて、御文章を聴く行事が3月から4月にかけて行なわれています。御文章開きといい、おフミさん・おフミさん開きとも

谷内公民館に祀られている谷内阿弥陀如来像



甲佐の歴史を紡いで

～町史編さんだより(36)～

御文章開きとトチクリマメ

町史編集委員 佐藤 征子 (民俗)

いいです。かつてはどの地区でも御文章開きがあり、その日程は地区毎に異なっていて、お互いに招きあっています。受元の家に地区の老若男女が集まって、それぞれ

の家から煮しめなどの料理を持ち寄って楽しい一日を過ごしたそうです。御文章は一つ一つは短い文章ですが、多く読まれると時間が長くなります。聴いている途中に眠くなり、

眠気覚ましにトチクリマメを食べたそうです。トチクリマメは、アラレと炒った大豆を粉と砂糖で丸めて作り、大きさはお握り位でした。

現在、本坂谷、谷内、西原、安平が御文章開きを行っています。受元の家を順番に回るやり方は止めて、公民館が会場となっています。公民館には阿弥陀如来がまつられています。

御文章を読む時間は短くなり、トチクリマメは作られていません。料理の持ち寄りも止めて、お弁当を買うやり方が行なわれています。

▼『甲佐町史』編さんに関するお問い合わせ先
町社会教育課町史編纂係
☎096・2344・3310

編集後記

特集でご紹介した放課後こども教室「乙女小まつやま塾」も発当初から、お邪魔するのが楽しみな取材先の一つです。

参加される地域の皆さんの子どもたちへのまなざしは熱く、思い入れは深く、子どもたちが「まつやま塾」を通して、ぐんぐんと伸びて成長していく姿を見る喜びにあふれています。

皆さんが考える体験企画はどんどん幅が広がっていて、ひとつの体験を通して、子どもたちの成長をつながっていくもの要素が盛り込まれているものばかり。大人が参加しても楽しめるほどのアイデアや発見が、体験の中に散りばめられています。

「まつやま塾」の趣旨は、子どもたちの安全・安心な居場所の提供となっていますが、地域の皆さんが元気に輝くための舞台を提供している側面も、本質的な部分と言えます。 (C)

Data 甲佐町の人口・世帯数

項目	数	増減
男	5,406	△1
女	6,075	△6
計	11,481	△7
世帯数	4,199	5

平成23年8月31日現在